

先月の「さくひんてん」は、いくつかイレギュラーな形にはなりましたが開催できたことを嬉しく思います。皆様のご参加ならびにご理解ご協力に感謝致します。

コロナウィルス対策の生活が始まって以来、園生活や各行事等が延期になったり中止になったり休園になったりで保護者の方から子どもたちがかわいそう、という声を耳にしました。確かにかわいそうかもしれませんが。しかし本当に恐ろしく一番かわいそうなのは園において子どもたちが集団感染を起こしてしまうことではないかと思えます。集団感染させない、が「目的」だとすると、これまでとってきた措置はそのための「手段」であり、皆様にご協力いただいたことに改めてお礼を申し上げます。とはいえ、まだまだ予断を許さない状態は変わりません。そんな中でもなんとか今月のありがとう会や卒園式などは、さくひんてん同様滞りなく行えることを切に願っています。

子どもたちは自分たちが不憫だとは思っていないかも、と思うシーンは園生活でいっぱいあります。むしろ生活習慣に慣れてきたこと、分かってきたこと、思いやりなどの気持ちが育っていることをしっかり彼らに伝えて褒めてあげるべきなのではないでしょうか。それはきっと未来に生きてくる価値観になると思えます。鳥になりたい、とか空を飛びたい、と思ったことはありませんか？私はあります。てか、飛んだことがあります。翼はないので幽体離脱に近い形でしょうか。長くなるので話しません。要は子どもたちはまだスイスイ飛ぶ必要なんてないのです。就学・進級にあたりまだまだいろいろな知識や経験を獲得していく彼らです。パタパタ、いやバタバタと飛んで行けと彼らに言いたい。それが「子どもたちらしさ」であり、いずれの「自分らしさ」につながるものと考えます。

ちなみに、もしも飛べた時に気をつけなければならないのは私の場合、「着地」だったのを覚えています。

今月のねらい

- ・就学・進級に期待を持ち、おもいきり園生活を楽しむ
- ・思いついたことややりたいこと、言いたいことが自由に出し合える